



- 「横浜市立大学」を中心に「横浜市」と首都経済圏の「民間企業」とが産官学連携
- 特徴は文理融合&実課題解決型
- 目的は「イノベーション創出を担う、データサイエンティスト育成」

気象データの活用目的

講義で扱う 企業様の実課題
「季節商品の返品数を減らしたい」

▼
気象データで解決の糸口を探れ！

Join!!!

データサイエンス 最前線

お声がけ下さったのは、ほかならぬこのお方・・・

横浜市立大学大学院データサイエンス研究科 客員教授
株式会社データビークル CTO
ベストセラー『統計学が最強の学問である』の著者



西内 啓氏

当社が提供した “2つのサービス”

気象過去データ提供サービス



HalexMemory!



担当 井原

気象予報士が対応

気象データの
読み解き方コンサル

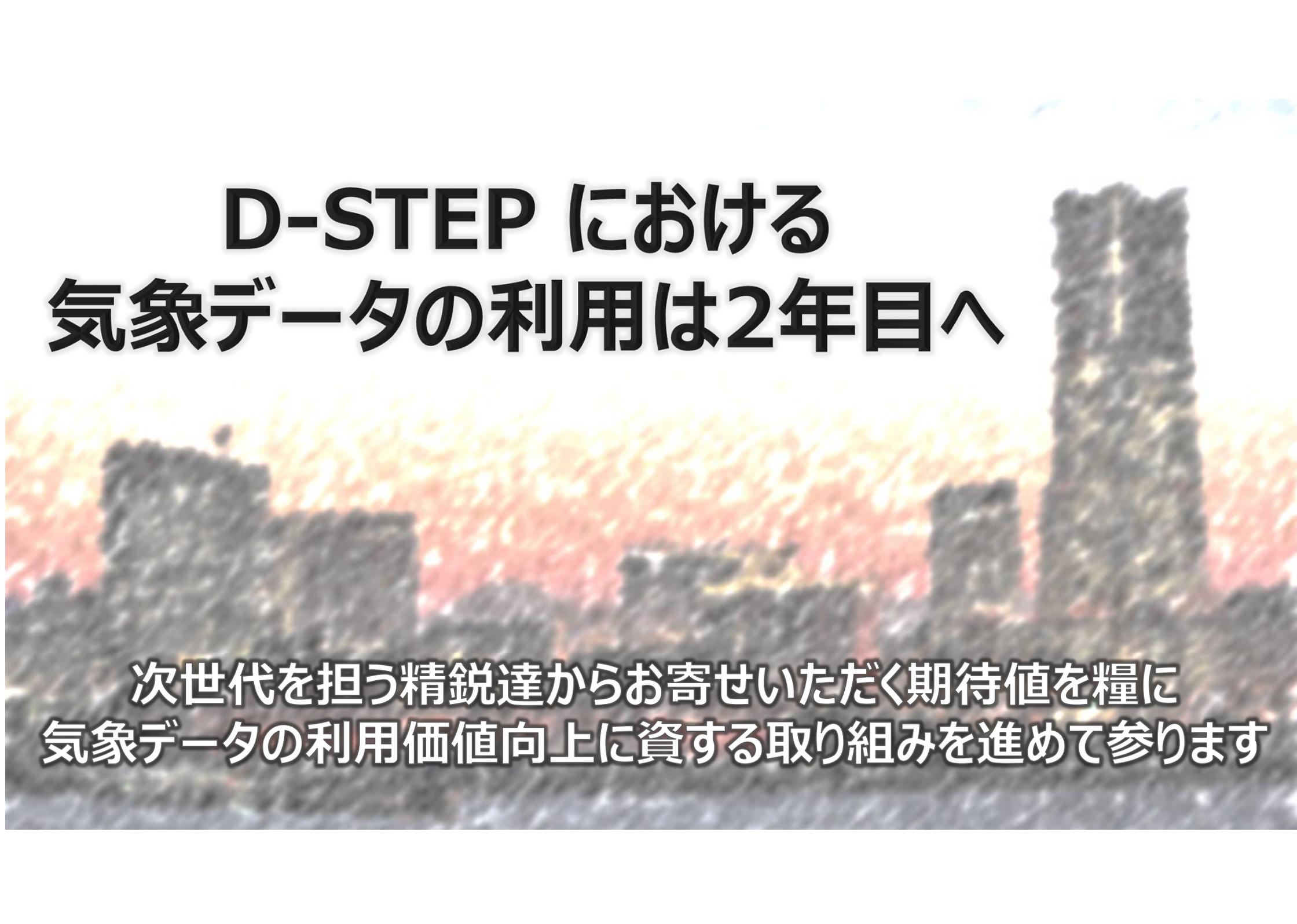
採用の決め手・・・Key Word は “世間との繋がり”

ハンドリングしやすいデータ形式は然ることながら
最も不可欠な魅力だったのは
世の中のデータとの照合を叶える“窓口”

3次メッシュコード

数値で並んだ気象データを
“現象”へと再現するためのアドバイス

商品を手にとって下さるお客様が抱く
生活レベルの“感覚”へ
データを翻訳する数々のコンサルティング



D-STEP における 気象データの利用は2年目へ

次世代を担う精鋭達からお寄せいただく期待値を糧に
気象データの利用価値向上に資する取り組みを進めて参ります